

所管事務調査報告

委員会は、議案や請願の審査を行うほかに、所管に属する事務について調査活動を行うことができます。能美市議会では、常任委員会ごとに具体的な年間活動テーマを定め、委員会を通じて調査研究や意見交換などを行ってきました。定例会最終日には、総務産業常任委員会及び教育福祉常任委員会の各委員長が所管事務調査の内容を報告しました。調査報告の主な内容を紹介します。

総務産業常任委員会

災害対策・消防体制と危機管理について

市民の安全・安心を守るために、防災対策は欠かせないものである。被災した自治体の災害対応と課題の調査研究のため、3市を行政視察した。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策も踏まえた避難所開設の対応策についても調査を行った。

これまでの調査研究を通して、消防体制、防災・減災対策、議会対応、避難所の設営・運営の4点について提言を行う。

消防体制については、消防機材の継続的更新や消防職員が安全・安心に働ける環境整備、市民への火災予防の啓発活動、消防団員のなり手不足を解消する施策が求められる。

防災・減災対策については、防災ガイドブックを有効に使いながら市民防災団体と連携し、市民への防災周知活動を行うことが望まれる。ま

た、防災センターを発信の場として積極的な活用を求める。

議会対応については、災害時のマニュアルや復旧復興時における議会の役割・手順の整備を進めていきたい。

避難所の設営・運営については、今後も新型コロナウイルス対策を念頭に置いた分散避難などの対応が求められる。また、行政は避難所の収容人数の確保に努め、幅広い視野で避難の受入スタイルを検討する必要がある。

防災対策においては、とりわけ災害弱者と言われる高齢者・障がい者・子ども等の要配慮者への対策と配慮が求められる。行政だけではなく、市民・企業の連携のもと防災対策に取り組んでいただくことを期待する。

教育福祉常任委員会

能美市立病院の経営改善について地域に愛され、地域に役立つ病院を目指して

能美市立病院は、昭和32年の開設以来、能美市唯一の公立病院として、地域医療に貢献している一方で、財政状況は厳しい状況にある。

「地域医療の砦」として、持続可能な医療提供体制を維持していくためにも検証が必要と捉え、担当部局との協議や行政視察として3病院を訪問した。

これまでの調査研究を踏まえて、経営改善に向けた3つの具体的な政策提言を行う。

1点目として、仮称「病院サポーター制度」を導入すること。市民の代表の方々と定期的に懇談会などを開催し、病院への意見を伺うことが、自己改革への推進力となる。そのためにも市民アンケートを実施すること。

2点目は、病院広報誌『のびのび』の刷新を行うこと。写真やイラストの多用など分かりやすい内容にする工夫が

求められる。また、ホームページやSNSを活用した積極的なPR活動も必要である。

3点目は、特に寺井・辰口地区における利用促進を図ること。通院に便利な「のみバス」の利用方法の説明や医師・看護師の紹介など工夫を行い、QRコードを武器に利用者の拡大を図ること。

市立病院においては、「思いやりのあるあたたかいところで、質の高い医療サービスを提供し、地域住民の健康を守ります」との基本理念のもと、さらなる経営改善への取り組みを行い、地域医療に貢献できる病院となることを期待する。



能美市立病院